

(仮称) 中通スマートインターチェンジ設置に関する請願

請願者

中通地区振興会長 篠田 秀雄 ⑩

西中通地区総代会長 吉田 博昭 ⑩

松波町内会長 牧口 哲夫 ⑩

荒浜町内会長 小野 敏夫 ⑩

紹介議員 山本 博文 ⑩

上森 茜 ⑩

2021年9月1日

柏崎市議会議長 真貝 維義 様

柏崎刈羽原子力発電所は、東日本大震災以来順次停止し、安全対策工事が完了したと思ったところ未完了工事が明らかとなり、また、核防護上の問題も明らかとなり当分再稼働を見通す状況にはありません。この問題については、事業者である東京電力株式会社がしっかり取り組むべき問題だと思っています。

一方、行政においては柏崎刈羽原子力発電所がある限り、避難計画の実効性をより高めるための検討と行動も求められるものと考えます。

そこで、以前より中通・西中通地区の地域懇談会でも要望してきております「(仮称)中通スマートインターチェンジ」の設置について強く要望いたします。

言うまでもなく、中通地区、西中通地区、松波町、荒浜地区は、原子力発電所で事故が発生し緊急事態となった場合に、放射性物質が放出される前の段階から予防的に避難等を開始するPAZ（予防的防護措置を準備する区域）であり、その区域内に存する国道8号と北陸自動車道の交差点（曾地高速バス停付近）にスマートインターチェンジを設置することは避難計画の実効性を高める

ことに非常に効果が高いことに議論の余地はありません。

万が一の事故発生時には、UPZ区域の住民の3割が避難開始するという調査結果もあると聞いており、市街地を経由するなど一般道中心の避難ではPAZ区域の我々住民の避難が困難になることが想定されます。

(仮称)中通スマートインターチェンジの早期実現に向け柏崎市はもとより県や国に対し強く要望等を行うとともに、スピード感を持って関係機関に働きかけを行っていただきますようお願いいたします。

要望事項

1. 避難計画の実効性を高める効果があり、平常時の利便性向上にもつながる
(仮称)中通スマートインターチェンジの設置を早期に実現すること